

八尾町立図書館（富山県）における電子図書館サービスの取組

1 八尾町の概要

当町は富山県の中央南部に位置し、面積237km²でその80%が山間地であり、南端は岐阜県と境を接している自然豊かな町である。（人口約2万3千人）

また、町の北西部に位置する富山八尾中核工業団地は、わが国の先端技術をリードする企業が進出し町の発展に大きく寄与している。

一方、当町は古来から越中と飛騨との交流の要所になって栄え、富山藩の御納所として重きをなし、蚕種・生糸・和紙等を産し取引が盛んに行われてきた。

豪華絢爛な曳山や、“風の盆恋歌”等で一段と有名になった全国に名高い民謡「越中おわら」は、江戸時代の町民文化の最も発達した華麗な面影を今に引き継いでいる。

2 電子図書館サービスを可能にした情報インフラの整備

八尾町では、高度情報通信社会がデジタル技術とネットワーク技術の進展により実現されつつある中、過疎化の防止や情報格差是正・地域内外への情報受発信体制の確立を図り、町民の多種多様な高度化する行政、生涯学習、健康福祉のニーズに対応するために放送や通信技術を活用することが重要になるとの考えで、平成7年にインターネットでの活用を視野に入れながら放送事業に着手した。

放送事業の着手により、町内全域に光/同軸による先進的ネットワークを構築し、インタラクティブ機能・CATV-LANの整備を行い、富山県内では初の自治体直営のケーブルテレビ放送事業が開始された。

このことにより、地域コミュニティ・行政・生活・催事情報等の映像記録が町で制作可能になり、これらの映像資料をデジタルアーカイブスとして図書館で提供できる体制の基盤ができた。

平成9年ごろには、地域の情報化やマルチメディア技術等が町民の日常生活にも浸透しはじめ、ネットワークのオープン化やグローバル化がさらに進展し、インターネットの利活用がさけられないものとなった。そこで、町は既存の情報インフラを利用して全国の自治体では初めての第1種電気通信事業者となり、デジタルデータ-電送サービス（インターネットサービス）の提供をはじめた。また、これらの情報インフラやインターネット設備を活用した、在宅療養支援システム・健康管理システム、ATM交換機を用いた映像の電送、各種の図書館システム等の構築が可能となった。

平成11年度には、図書館マルチメディアシステムを構築した。これは、町のコミュニティセンター（中に「八尾町立図書館ほんの森」がある）と東町図書館、福島図書館の3館を光ファイバーで接続し高速映像通信ネットワークで結び、映像情報を共有し検索・閲覧等の情報提供を行うものである。また、インターネットで各家庭から蔵書情報の検索・予約が可能となり、その他の地域情報を始め各種情報も入手できることにより、開かれた行政・生涯学習の向上に役立て、魅力ある町づくりを目指している。

3 図書館の概要及びサービスについて

八尾町には、現在図書館が3館あり、「ほんの森」を核に「東町図書館」「福島図書館」を情報ネットワーク（光ファイバー）で結び運営している。

平成12年4月に「八尾町立図書館ほんの森」が町内で3館目の図書館として開館した。新館ができたことや3館になったことなどで、利用は従来の約2倍に増え、入館者は13年度には10万人を超え

た。「ほんの森」は、床面積が1,219㎡あり、ト
ップライトからの光や1階からの吹き抜けなど、明
るく開放感あふれる空間となっている。子どもや親
子の利用に重点を置き、児童書の充実や読書環境づ
くりを行うとともに、本だけでなく多様な情報資料
(ビデオ・DVD・CD-ROM・CD等)の提供
を行うなどの特色を持っている。

平成13年度の図書館実績

- ・ 登録者数 8,713人
- ・ 個人貸出冊数 109,168冊
- ・ 蔵書冊数 109,543冊
(うち視聴覚資料3,809点)

<電子図書館化のサービス>

利用者用開放パソコン(8台)により、無料で
インターネット(最高8Mbps)・CD-ROM・
ゲーム等が利用できる。現在、1日平均約30
回以上の利用があり、特に土曜・日曜や夏休み
期間などは朝から予約待ちがでるほどの利用状
況である。(現在建設中の新東町図書館にも8
台ほどの利用者用パソコンを設置の予定)また、
個人の持ち込みパソコンでもインターネットが
無料で接続可能。

MIODS(マルチ・インフォメーション・オ
ン・デマンド・システム)サービスにより、町
が制作した最新の地域情報等を「見たいとき、
見たい情報を」テレビ画面で検索し電話で予約
し、図書館の視聴覚ブースで視聴することがで
きる。(各家庭からも視聴可能)

DVD動画配信サービス

町が制作した映像ソフトを、「ほんの森」に設置
したDVDオーサリングシステムによりデジタル
コンテンツとして編集作成しDVDチェン
ジャーに収納する。

これらのコンテンツを、ATM高速回線を使用
したDVD映像配信システムで、3館同時に検

索・閲覧ができ各図書館のモニターで視聴する
ことができる。(郷土映像資料の蓄積は町の貴
重な財産と考える。)一般の利用をはじめ、子
どもたちの郷土学習のために活用したり、調査研
究や観光で町外から来館した利用者にも気軽に
視聴できるシステムとなっている。

図書館蔵書検索・予約サービス

八尾町ホームページの図書館情報から、資料検
索と予約ができる。図書館システムとは別に、
インターネット資料検索・予約用のサーバーを
設け、24時間受け付けている。

利用者はインターネット予約を行うために、事
前に図書館利用カードとパスワード・メールア
ドレス等の登録が必要となる。予約した資料は、
町内3館のどこで受け取りたいか、館を指定す
ることができる。(視聴覚資料については予約
を受け付けていない。)

図書館側は、予約が入ると予約情報を確認しな
がら図書館システムへの予約入力を行う。予約
された資料が準備できると、メールで利用者へ
連絡し、1週間以内に取りに来てもらう。

現在、インターネット予約の登録者は図書館利
用登録者の約2%。主に新刊図書やベストセラ
ーに予約が多く入る。また、求める資料がど
この館に所蔵しているか、貸し出し中でないか等
を予め調べたうえで来館できるので、利用者
にとっては無駄がなく便利なシステムと好評であ
る。

4 今後の図書館サービスの取り組み

当町では、図書館を生涯学習、情報文化の中心と
して位置付け、さらに整備拡充を進める計画である。

現在、「新東町図書館」(現東町図書館を新築移
転)を建設中であり、八尾町に関する郷土資料の収
集や特設展示など、郷土資料館的な役割を持つと

もに、マルチメディア施設としての機能も充実し、「ほんの森」「福島図書館」と連携した電子化への対応や電子メディアに対象を広げた図書館情報基盤の拡充・確立を目指してきたい。

また、ネットワーク時代の中、図書館のホームページの充実や各種情報のアクセス環境の整備など、利用者要望に対応する必要があると考える。

さらに、デジタルデバイドの解消や、情報リテラシーの向上を図るための拠点としての機能も拡充し、様々な情報に触れる機会を創出していきたい。

これらの機能を図書館が果たすために、今まで以上に人材の育成・確保や職員の資質向上が重要であると考えている。また、日々進んでいく技術発展のなかで、従来の機器・システム等の陳腐化にどう対応していくかが今後の課題である。



八尾よいとこ

おわらの本場

二百十日を

オワラ出て踊る

八尾町コミュニティセンター
(八尾町立図書館ほんの森)



八尾町コミュニティセンター内に生涯学習情報・イベント情報などを提供するシステムの構築や研修の場を提供する。

ふれあい 結びつき
子どもから大人へ
ふれ合いから学びへ
広がり

情報文化の拠点
レファレンスサービスの向上
情報リテラシーの向上

開かれた図書館
気軽にひととき
を過ごす

INTERNET



各家庭より収蔵書等の図書館情報を閲覧・予約でき、文字だけでなく音や動きも調べられネットワークを組めば世界の情報源にも飛べる。

役場の主要施設はギガビットイーサー (1Gbps) による超高速バックボーン

- ホールシアターシステム
- 研修プレゼンシステム
- マルチメディア工房
- 生涯学習支援システム
- オーディオ編集・LIVE編集・ビデオ編集など



ネットワーク時代の
デジタルアーカイブ

図書館が持つ貴重な資料や映像資料などのデジタル化及び収集を図る等、情報の蓄積により学習情報・生活情報・文化・産業活動を支援する。

生涯学習情報と
地域情報の活用

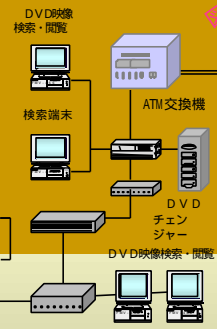
文化情報やイベント
情報等の情報提供

図書館サービスの
広域化・電子化対応

「図書館ほんの森」
マルチメディアライブラリー (館の中心、対象は子ども親子)

マルチメディア機能で質の高い情報提供
画像や音声による高度なマルチメディア機能を検索機能と連動して実現。

- VTR閲覧システム
- MDDSシステム
- オーサリングシステム
- DVD検索閲覧システム
- CD-ROM検索閲覧システム
- 蔵書検索予約システム



閲覧用PC 8台 (インターネット利用無料)

東町図書館

(観光客の利用も対象に) 郷土資料と文化の拠点

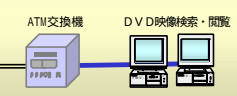
情報に触れる場の創出・IT研修室活用
高齢者の憩いの場創出



閲覧用PC 8台 / 町民サロン用 8台
(インターネット利用無料)

福島図書館

(中学生 高校生を中心に学習の場としての図書館)



閲覧用PC 8台 (インターネット利用無料)

3館で検索 閲覧出来るDVDの動画配信サービス、ホームページの図書館情報からインターネットで図書予約できます。

大阪府立図書館における マルチメディア図書館の構築

1 大阪府立図書館の概況と利用状況

大阪府立図書館は、住友家第15代当主・住友吉左衛門友純氏から図書館の建物等の寄付を受け、明治37年に開館した。昭和49年には夕陽丘図書館が開館し、中之島図書館(府立図書館の名称変更)と2館になった。

平成8年に中央図書館の開館(夕陽丘図書館は廃止、特許資料等は大阪府立特許情報センターに移管)及び中之島図書館のリニューアルを経て現在に至っている。

概況と利用状況は次のとおりである。

	中之島図書館	中央図書館
立地場所	大阪市北区	東大阪市
職員数	41名	91名
蔵書冊数	50万8084冊	142万9395冊
貸出冊数	115,733冊	1,053,118冊
資料費	27,160千円	115,211千円
利用登録者	120,993名	

2 インターネットの活用

平成8年に導入した図書館情報システムは平成13年7月にリプレイスされ、インターネットを利用した新しい図書館サービスができることとなった。

主なインターネットを利用したサービスは、ホームページを通じた情報提供、蔵書検索、横断検索、電子図書館、e-レファレンスである。

サービス実施に当たり、府の財政事情もあって、通信・放送機構(総務省の外郭団体)の研究事業として、大阪府立図書館等をフィールドとして実施してもらうことにより、不足する機能を補完することにした。

この事例報告では、通信・放送機構の「大阪府マルチメディア・モデル図書館展開事業」を中心にし、あわせて府事業として取り組んでいるe-レファレンスについて紹介する。

(1)大阪府立図書館のインターネット環境

府立両館のインターネット環境は次のとおり

- ・インターネット接続している端末

	中之島図書館	中央図書館
職員用	8台	21台
利用者用(1)	4台	6台
IT講習用	45台	80台

(1) 来館者が使えるインターネット端末

- ・常時接続専用線...1.5Mbps
- ・利用者用にはADSL8Mbpsを利用

- ・ホームページアクセス件数

	件数(7月~3月)	月平均
トップページ	57,330	6,370
全ページ	1,101,499	112,768
Web-OPAC 検索	278,397	30,933
横断検索	117,906	13,101

Web-OPAC 検索、横断検索は検索回数

(2)大阪府立図書館ホームページの開設

平成11年4月から大阪府立中之島図書館ホームページはマイドーム大阪のサイトを利用して開設されていたが、平成13年7月に大阪府立図書館蔵書検索(Web-OPAC)開設に併せて、大阪府立図書館ホームページが開設された。



(大阪府立図書館ホームページ)

<http://www.library.pref.osaka.jp>

ホームページの構成は、府立図書館のページ、中之島図書館及び中央図書館独自のページとなっている。

ホームページの作成に関しては、職員の情報リテラシー向上、スキルアップ及びホームページのメンテナンス性の向上を目的として、すべて図書館職員が作成を担当している。

府立図書館ページ

- ・お知らせ
- ・大阪府立図書館、府域市町村図書館の催し物
- ・開館日カレンダー
- ・地図（図書館へのアクセス）
- ・統計・規則・予算
- ・類縁機関案内
- ・府域市町村図書館名簿

【資料検索】

- ・大阪府立図書館蔵書検索
- ・大阪府立図書館新着図書案内
- ・大阪府 Web-OPAC 横断検索
- ・大阪府域集中型総合目録
（四条畷市、大東市、阪南市、美原町）

【目録、コレクション】

- ・主要新聞所蔵一覧
- ・大阪府内市町村史誌目録
- ・大阪府内市町村図書館雑誌総合目録
- ・コレクション（貴重書、CD-ROM）

3 マルチメディア・モデル図書館

大阪府マルチメディア・モデル図書館展開事業は、情報通信技術を利用して『**教育と福祉に根ざしたオールエイジへのユニバーサルな図書館サービス**』を実現しようとするものである。

この事業は、通信・放送機構による研究開発事業であり、通信・放送分野においてこれまでに開発された基本的技術要素を組み合わせ、図書館サービスに有効な電気通信システムとして構築するための技術を開発するものである。

大阪府は平成12年6月にT A Oの通信・放送協力成果展開事業「マルチメディア・パイロットタウン構想(マルチメディア・モデル博物館(図書館))」に協力申し込みをし、同年9月に採択された。平成12年9月から平成17年3月まで5カ年の計画で、中之島図書館、中央図書館を核に、大阪府内の公立図書館、大学・専門図書館、学校等の協力のもと、大阪府域をフィールドとして実証実験を行うこととなった。

事業の展開にあたって、学識経験者を中心メンバーとした「大阪府マルチメディア・モデル図書館システム研究会」を設置するとともに、実証実験を運営するための「システム運営担当者会」（大阪府立図書館、公共図書館、専門図書館、学校等から構成される）を発足させた。

この実証実験では、次の4つのシステムを構築し、だれもが利用しやすいユニバーサルな図書館サービスの実現を目指している。

(1)福祉型 Web 図書館システム

公共図書館の役割として、障害者や高齢者にも優しい図書館サービス、使いやすいユーザインターフェースを提供することが責務であるが、近年情報処理技術の発展を背景に、新たな取り組みが可能となってきている。従来の視覚障害者に対する対面朗読サービスの拡充に加えて、今後はコンピュータを活用した音声サービスを実現することで、「みる」「きく」が保障され、視覚障害者等にも優しい図書館サービスが提供できる。そのため、青空文庫等の高品質なテキスト所有機関との積極的な連携を図るとともに、ボランティアによるコンテンツ作成体制を整備する。

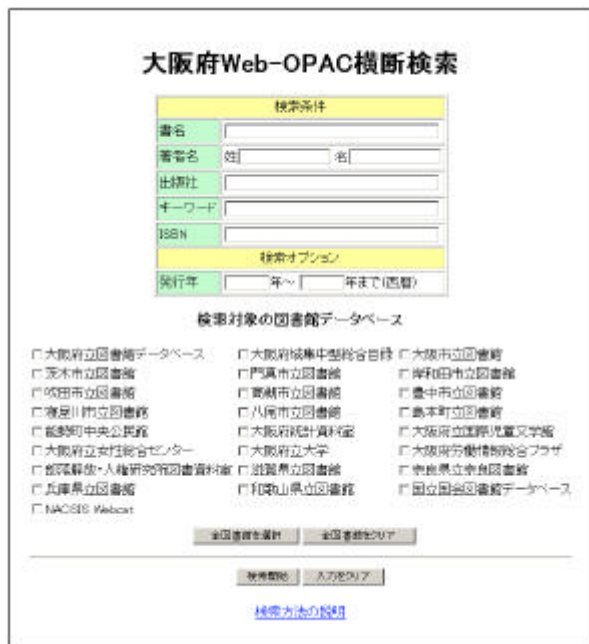
(2)複合型 Web 図書館システム

図書館のネットワーク化により、「どこに何があるかすぐに分かる」総合目録サービスが強く求められている。そのため、大阪府内

の図書館と連携して、それぞれの図書館の蔵書目録をインターネットから検索できるだけでなく、複数の図書館の蔵書目録を総合的・横断的に検索できる総合目録サービスを提供する。

実現方法として、Z39.50に対応したWeb-OPACの横断検索と集中型総合目録を併用することとしている。

現在、大阪府立図書館ホームページにおいて大阪府Web-OPAC横断検索、及び大阪府域集中型総合目録を公開し、実証実験を行っている。Web-OPAC横断検索及び集中型総合目録により大阪府内の府及び15市町の図書館63館と大学・専門図書館6館の蔵書延べ1168万冊（近畿4県〔滋賀・奈良・兵庫・和歌山〕の県立図書館の蔵書202万冊を併せると1370万冊）がまとめて検索が可能となっている。



集中型総合目録は、uni-code(UTF-8)を採用しており、中央図書館所蔵の朝鮮語図書及び中国語図書の一部（約5500冊）の検索を可能にしている。又、データベースには、リレーショナルデータベースではなく、XML（タグ付テキストファイル）を採用しており、インターネット情報の格納も視野に入れている。

大阪府域集中型総合目録検索結果一覧 (Search results -- List View)

検索条件: [(任意)]
該当件数は 3354 件です。現在 11-20 件目を表示しています。

No.	種別 (Type)	書名 (Title)	巻次 (Volume)	著者 (Author)	出版者 (Publisher)	出版年月 (Date)
11	図書	読書 100冊 読み方		岡田 宗子 著	中央図書	2001
12	図書	読書 100冊 読み方 2	2	岡田 宗子 著	中央図書	2001
13	図書	読書 100冊 読み方 3	3	岡田 宗子 著	中央図書	2001
14	図書	読書の楽しみを 読む 楽しむ 読む 楽しむ		岡田 宗子 著	中央図書	2001
15	図書	読書 100冊 読み方 4	4	岡田 宗子 著	中央図書	2001
16	図書	読書 100冊 読み方 5	5	岡田 宗子 著	中央図書	2001
17	図書	読書 100冊 読み方 6	6	岡田 宗子 著	中央図書	2001
18	図書	読書 100冊 読み方 7	7	岡田 宗子 著	中央図書	2001
19	図書	読書 100冊 読み方 8	8	岡田 宗子 著	中央図書	2001
20	図書	読書 100冊 読み方 9	9	岡田 宗子 著	中央図書	2001

(3)Web 電子図書館システム

インターネット時代の新しい図書館サービスとして、図書館が所蔵する貴重書や郷土資料を電子化して、ネットワークを利用して公開する「電子図書館」を積極的に進める必要がある。ネットワークにより家庭や学校等からの資料や情報の利用、自発的な活用の活性化を図り、利用者参加型の広域電子図書館を目指す。

現在、中之島図書館に、超高精細画像表示装置を設置し、大阪府立図書館所蔵の貴重書の一部を公開しており、今後、インターネットでの公開を予定している。



(超高精細表示ディスプレイによる貴重資料の公開)

(4)参加型 Web 学校図書館システム

学校では、生徒の自主性を育むため学校図書館を利用した『調べ学習』を展開しており、公共図書館はこれを積極的に支援していく必要がある。そこで、調べ学習の支援を目的とした参加型調べ学習データベースを構築し、調べ学習の成果を公開するとともに、利用者がそれを活用して追体験を行い、さらに新たな学習効果を順次追加していくことができるような調べ学習支援サービスを計画している。総合目録データベース、電子図書データベースとの連携により、学校図書館・地元図書館・府立図書館間における図書・資料と電子情報の相互の活用を図ることとする。

4 e - レファレンス

e - レファレンスとは、インターネットを利用してレファレンスを受け付けようというものである。単にメールを利用したレファレンスより、誤操作を避けられる、レファレンス・データのデータベース化が容易ということで専用のフォームを作成した。

現在はプロトタイプ(お試し版)であり、市町村図書館、参加型 Web 学校図書館に参加している学校を対象に e-レファレンスを受け付ける予定にしている。

このプロトタイプで、e-レファレンスのノウハウ修得、公開用レファレンス事例データベースの検討を行い、一般利用者(個人)まで対象を広げる計画である。

詳細情報	
発行番号	0003
発行年月日	2002/9/12
図書館名	〇〇市立〇〇図書館 選択欄 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
e-mail	XXXXXXXXXXXX
TEL	XX-XXXX-XXXX
FAX	
調査内容	<input type="checkbox"/> 書誌事項調査 <input type="checkbox"/> 文献紹介 <input type="checkbox"/> 事実調査 <input type="checkbox"/> 照会検索案内
タイトル	リバークエスト
質問内容	大瀬川のリバークエストという新子を探しているのですが
回答期限	①1ヶ月以内 ②1週間以内 ③2~3日程度
回答日	2002/10/17
回答先	大阪資料室 回答担当者 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
回答	『リバークエスト』川と水に生き生きと暮らすためのガイド『大阪府環境保健環境局長賞賞状』1992、請求記号469-148)は、中之島・大阪資料室、中央・建庫にあります。なお、この本には『マップ編』(四庫、1999年、493-1490)もあつたようですので、申し添えます。
関連HP	リバークエスト リバースここにほとんどの本が閲覧するためのガイド

5 今後の課題

電子図書館の特徴は、自宅から図書館の立地や開館時間に無関係に、いつでもどこからでもサービスを受けられることである。「A図書館」「B図書館」という個別の図書館の垣根を越えて、多様な図書館資料・情報資源をシームレスに使える利便性の高い仕組みが望まれる。

マルチメディア図書館の実現に向けて、図書館相互、学校、コンテンツ所有機関、ボランティア等との人的ネットワーク、物流ネットワークなどを確立して、これらの機関が所有する資料・情報を連携させていくこととしているが、特にコンテンツの充実のための協力体制とボランティア等による支援体制づくり、府域を網の目状に結ぶ図書資料搬送の物流ネットワークづくりが大きな課題である。

また、電子図書館においては、各図書館がどのような資料・情報を豊富に収集し、どのような専門性や特色ある機能を有しているかが問われるようになる。

その意味で、今後は、大阪府域図書館のネットワークとして独自性をどのように発信していくのか、全国的なネットワークとどう連携していくか、さらに府域における図書館相互の機能の明確化、資料・情報の収集・保存の分担等をどのように進めるのかも課題になってくると考えている。

(参考 URL)

「大阪府マルチメディア・モデル図書館展開事業」について
<http://www.library.pref.osaka.jp/lib/taomulti.htm>

大阪市の図書館情報ネットワークシステムと「電子図書館」

1 はじめに

「電子図書館」サービスの現状をという依頼ではあるが、「電子図書館」という用語にはさまざまな定義があり、一般にはわかりにくいので、ここでは図書館の情報化なり電子化（以下本稿では電子化とする）という視点から、本市の現状について報告する。ただ図書館の電子化という言葉もいろいろな意味で使われているので、電子化の対象を次の三つに分け、本市の図書館情報ネットワークシステムとこれを活用したサービス事例について紹介したい。

(1) 図書館業務の電子化

貸出や予約等、館内の資料の管理や運用業務のコンピュータ化と、館内のネットワーク環境を活用した業務の紹介。

(2) 図書館資料の電子化

貴重資料や全文データベース等の一次資料の電子化と、レファレンスツール等、2次資料の電子化の課題。

(3) 図書館サービスの電子化。

インターネット等の情報通信技術を活用した新しい図書館サービスの現状。

2 大阪市立図書館の概況

はじめに本市の図書館の概況に簡単に触れておきたい。現在大阪市の図書館は中央図書館1館、地域図書館23館（1区1館）自動車文庫2台及びシステム（搬送）車4台で運営している。中央図書館は平成8年に延床面積34,500㎡という自治体最大規模の公立図書館としてリニューアルオープンした。

平成13年度の年間貸出冊数は、1,000万点、調査相談件数は、38万件を超える。なかでも中央図書館は年間200万人が来館し、一日平均7千人以上の入館者、1万冊を超える貸出で、開館以来、日本一の利用実績を維持

している。

全館の蔵書数は、290万冊を超えるが、中央図書館ではその内の127万冊を所蔵、雑誌は3,500誌、新聞200紙、AV資料も27,000点、他にもマイクロやCD-ROMなど多様な資料を収集保存している。

3 図書館情報ネットワークシステムの概要

日本最大規模の図書館組織の運営と膨大な資料の管理、そして高い利用実績を支えているのが、図書館情報ネットワークシステムである。本市では平成元年から順次地域図書館にコンピュータを導入し、平成8年の中央図書館の開館時に全館オンライン化による第1期図書館情報ネットワークシステムが稼動した。全館の蔵書の予約・相互貸借、共通貸出・返却など一元的な運用・管理が可能になり、館内にはOPACやCD-ROMの閲覧端末を設置した。また自宅から24時間利用できる、パソコン通信を利用した検索システムも提供してきた。

現在のシステムは、平成13年に第1期システムのリプレースにあわせて再構築した。業務別のユニックスサーバとクライアントはウィンドウズパソコンに統一して、館内LANの高速化等により、図書館の電子化や新しい図書館サービスの展開に対応できる情報通信基盤の整備を図っている。

4 本市の電子化の現状とサービス事例

(1) 図書館業務の電子化

図書館の閲覧や収集整理業務等の処理システムは、本市でも導入前に比べ2倍以上に伸びた貸出や迅速な予約処理などサービス量の増加を支え、膨大な蔵書の運用管理に欠かせない。本市では見計らい選定や発注・受入が独自のシステムであること、また導入当初から個人情報の保護の厳密性を追及し、個人情報を各館ごとのオフライン管理としてきたことや運用に合わせたきめ細かい閲覧システ

ムの開発等が特徴として挙げられる。

今回、館内のネットワーク環境が整備されたことで、レファレンス業務等でのインターネットの活用が定着し、商用データベースの利用も中央だけでなく地域図書館まで需要が拡がりつつある。また館内イントラネットによる、情報システムや業務マニュアルの整備、レファレンスツールや事例集の共有、館内掲示物の雛形の共有や研修成果の閲覧など、メール等での事務連絡に加えて、業務利用も急速に進み、内容も多岐にわたっている。

(2) 図書館資料の電子化

一般的な図書館資料の電子化については、国の責任と考えられ、自治体の図書館が手がける分野は、地域・行政資料等になるだろう。本市では平成6年度から大阪関係の古文書や古地図、郷土カルタや絵葉書、写真、浄瑠璃本、明治期の引札など近世以降の資料を画像データとして電子化する事業に着手した。平成8年度の中央図書館の開館にあわせて、書誌事項とリンクしてページ毎のイメージを表示するイメージ情報検索システムを開発。専用端末2台で公開したが、平成13年度からインターネットや館内のOPACで検索閲覧できるよう改善した。現在約15万枚(頁)の画像データをJPEGで蓄積しており、約半数が大阪関係の和装本や古い資料である。損耗の著しい貴重書の保存と閲覧(内容確認)の両立を図るとともに、ホームページではWEBギャラリーとして、隔月でテーマ毎に画像データをピックアップし、大阪関係の資料を紹介している。

一般的な書誌情報等の2次資料の電子化も全国的に総合目録や横断検索等のシステムが整備されつつあり、WebcatPlusのように内容も書誌事項から内容紹介や目次情報まで豊富化されてきている。本市でも平成8年からBOOKデータの内容紹介や目次情報をリンクしてOPACで提供しており、現在はこれらの目次や紹介文中のキーワードでも検索で

きるようになっている。

(3) 図書館サービスの電子化

平成13年5月から新システムの運用に切り替え、OPACからの図書の貸出予約を開始、電話による音声自動応答システムで、予約状況の確認や返却期限の延長ができるようになった。平成14年1月からは、インターネットでの図書の貸出予約、予約状況確認や取り消し、メールでの連絡等のサービスを開始。3月には貸出状況確認、返却期限の延長機能も追加した。

利用者には好評で、予約総件数は、OPAC予約開始により前年比で約4割増し、インターネット予約によりさらに2割程度の伸びを示している。平成14年12月に携帯電話(3キャリア)からの検索・予約・延長システムも稼動した。総件数は伸びたが職員の予約入力件数は減り、メール連絡は電話連絡よりも確実性が高い。利用者自身にインターネットもしくはOPACからアドレスの登録をいただき、予約資料が予約棚に確保された時点で自動的にメールが送信されるシステムなので、積極的に利用者に推奨している。

本市のOPACは、タッチパネル方式のOMLISとキーボード方式の多機能OMLISの2種類であるが、別に中央と生野図書館にはハングルと中国語資料検索用のOPACを設置している。多機能OMLISからは、各サーバに接続し、蔵書検索とCD-ROMやイメージ情報の閲覧の他、インターネットに接続して大阪市の行政情報等が閲覧できる。現在インターネット接続メニューの拡充範囲を検討しており、国会等他館の蔵書検索や有用な情報源のサイト等、図書館固有の情報端末として司書が選定した情報源を提供していく予定である。

中央図書館内の閲覧室には情報コンセントを設置しており、本市の図書館のホームページに接続して蔵書の検索や大阪市の行政情報を閲覧できる。情報コンセントはOPAC同様、

プロキシで制御しているため OPAC のインターネットメニューの拡充に伴って情報コンセントから利用可能なサイトも増える。今後は館内の OPAC の増設も難しいため、代替として情報コンセントの有効活用を図りたい。

また、学校連携事業の利用案内等を盛り込んだ本市の学校向けのホームページも開設しており、今後は市の行政部局や職員向けに庁内情報ネットワークから接続できる図書館サービスのページをつくることも検討したい。

5 今後の図書館の電子化の課題

最後に図書館の電子化の推進に向けて、公立図書館全体の課題として捉えるべき事項について触れておきたい。一次資料の電子化では、国家レベルでのプロジェクトとして、一定期間を経た雑誌のバックナンバーの全文（画像）データ化が望まれる。すべての図書館が雑誌の保存には頭を痛めており、ストック情報として重要なので、雑誌記事索引の公開の効果を高めるためにも、関西館の電子図

書館事業として検討されることを期待している。また全国レベルでの画像データの横断検索システムの構築やデータ記録・提供方式の標準化、入力作業の分担等の調整も必要だろう。

二次資料の電子化の課題としては、従来型の資料と電子資料やネットワーク上の情報源を統合したレファレンスツールの整備があげられる。すでに国会図書館の Dnavi やレファレンス事例のデータベース化のプロジェクトもあるが、参考図書全文の電子化を核として、各図書館の地域情報に関する参考資料をネットワーク上で連携・統合した、本格的なレファレンスツールの電子化が望まれる。

サービスの電子化では、今後公立図書館は商用データベースや CD-ROM のネットワーク利用に本格的に取り組む必要があるが、図書館利用に対する各ベンダーの認識も浅く、各館が個別にライセンス契約の交渉するのは負担も大きい。「日経テレコン」のように図書館協会がアクセス数制御方式等の図書館向けの一括契約に向けて、ベンダーとの交渉を積極的に推進していくべきだろう。

(文責：小西和夫)

(OMLIS : Osaka Municipal Library Information System)

大阪市立図書館ホームページ (<http://www.oml.city.osaka.jp/>)

